



新年のごあいさつ

担当常任理事 佐々木 達



新年おめでとうございます。

先生方におかれましては、健やかに新春をお迎えのことと存じます。

広島市医師会をはじめ安佐、安芸地区、大竹市、佐伯地区、山県郡の各医師会の会員の先生方には日頃の御愛顧ならびに御指導に感謝し、厚く御礼を申し上げます。

昨年2月頃からの国内での新型コロナウイルス感染症の流行は、地域の医療情勢にはもちろんのこと、当検査センターの運営にも大変大きな影響を与えました。緊急事態宣言下の4～5月では受診患者数の減少により、検体検査件数が前年比約75%にまで低下しました。外回り、所内とも職員への衛生教育や私生活を含めた行動自粛の指導など、感染予防対策の徹底に注力しました。

検査体制の整備の遅れが指摘される中、7月には広島県との協調のもと、新型コロナウイルス PCR 検査を所内導入しました。微生物検査室の陰圧室とセーフティーキャビネットを使用し、安全かつ精度の高い検査を実施できております。8月に県の公募による唾液検査協力医療機関が導入され、それ以降は基幹病院のみならず診療所からの検査依頼も増加しています。今後も流行の動向や行政の指針を注視しながら、地域の検査機関として担うべき役割を果たしていきたいと考えています。

従来から継続している診療支援としては、ご好評をいただいている「疾患別検査ガイド」の第11巻「高尿酸血症・痛風2020」を昨年5月に発刊しました。その概要説明を兼ねた学術講演会については、WEB形式を取り入れた形での開催を検討中です。また次号のテーマを「鼻アレルギー」として、発刊を計画しています。このほか電子カルテの導入支援など、システム管理部門による個別の医療機関対応も実績を上げています。

前年に引き続き検査、営業、システム、全部門を挙げて、先生方に「いちばん身近な検査室」としてご利用いただけるようサービスの向上に取り組んでまいります。お気軽に声をかけ下さい。

最後になりましたが、先生方の益々の御健勝、御発展を祈念し新年の御挨拶とさせていただきます。本年もどうぞ、宜しく願い申し上げます。